「旭日双光賞勲章」

平成１９年”春の叙勲”の表彰を拝受してお礼の言葉　　谷口巳三郎

H19年度の日本政府の内閣府賞勲局を通して「春の叙勲」を私（谷口巳三郎）にも授与されました。
それは、私が１９８３年に渡タイして以来、約２５年間に主として北部タイを、そして世界の最貧食国にランクされているメコン河エーリアの国々の農村開発と農村青少年教育の努力に対して、又、日本よりの大学、高校、中学生を年間数百名受け入れての啓蒙活動に対して評加されたもので、北部タイのチェンマイにある日本総領事館が日本政府に働きかけられて叙勲が決定したと聞いております。
　私が２０ｋｇの鞄一つ下げてタイのバンコク空港に降りたったのが１９８３年２月１日、今日で２４年経ちました。発展途上国の農業改良、農村開発を目的とした私個人の発想のプロジェクトです。
　その間の経費は妻が作った日本の２つの支援団体－タイとの交流の会、北部タイ農村振興

会－より２億４０００余万円、日本の特志家の方々より約２５００万円、タイの日本大使館の草の根資金と日本の郵政省国際ボランティア貯金より１１５９万円、総計で２億７０００余万円になります。その間タイ国よりの援助は６万バーツ（１８万円)）でした。

私のプロジェクトは十二分の成果には程遠いものでありますが、この話がチェンマイにある日本総領事館より持出された時”他にもっと成果の上った例はありませんか”と一応辞退申し上げましたが、長い間私を支えて下さった多くの日本の方々へのお礼の気持ちをこの受賞によって表現できればと考えて最終的には受諾致した次第です。熱帯の発展途上国の電話も無い田舎で 、独りで、人様の御芳志だけを頼りに、毎日毎日、地下多タビと幣衣姿で農村開発をする老農夫。日本の外務省はどうにかＯＫになりましたが、最終の決定権を持つ内閣府の叙勲局で大きく揉め・・・タイ国側からの表彰を受けたこともなく、百姓現役の一農夫などに、未だ且つて叙勲した例も無い・・と。だがどこでどう風向が変わったのか授賞式の一ヶ月位前に本決まりになったと総領事館より電話を頂きました。

受賞は５月１１日の午前中に東京の外務省にて麻生外務大臣より賞状及び勲章の授与その後、外務省響応の昼食をとり、受賞者は拝受の勲章を胸に付け、配偶者同伴の３０余名は外務省のバスで皇居へ。

皇居では大広間の春秋の間へ全員導かれ、天皇陛下御１人出御され、有難いお言葉や拝謁を賜りました。この様な名誉ある晴々しい場に出席できたのも、皆様方のご支援のお陰です。此処に改めて中心より厚く厚くお礼申し上げます。

H19.5.12（叙勲の翌日）

谷口巳三郎先生・恭子先生　講演会の感想文

（紙面の都合で要約して掲載致します。お許し下さい）

場　所：千葉県市立松戸高校　　聴講者：高校生・大学生・一般

谷口巳三郎先生へ

1．巳三郎先生は、常に目標を持っておられ、まずタイ、そしてミャンマ-、更にラオス、更にカンボジアへと努力を続けておられますが、それは人に褒められたいからではなく、人の役に立ちたい心からで､この心が大切と気付きました。

2．“希望は自ら作るもの、希望があれば瞳は輝く”先生にお会いして、その瞳は輝いていました。その意味がよく分かりました。

3．榎本先生が、谷口農場に預けたストリ-トチルドレンの子供達が問題を起こした時、谷口先生が言った一言「ああゆう子供」の為に私達が居るのです」この言葉を聞いて改めて、人の為に働く大変さ、先生の大きな愛を感じました

4．「日本の青年は、まだ捨てたもんじゃない」の言葉、嬉しかった。今自分たちは、毎日平和に勉強でき、とても幸せ。地球の温暖化、貧困、食料、水不足、石油等の問題は、どこか遠くの危険な事と思っていたが、実際は地球はもう崖っ淵に立って居るとの事、私達はもっと真剣に、今を大切に、胸を張って、前を向いて一歩一歩出来ることから節約を始めます。

5．最近親が子を、子が親を殺し合う等のニュ-スが多い。巳三郎先生の姉上は３歳の時、はしかで失明され、その弟が夭折されたとき、母上に「きつかったね」と言われたら「あんたが盲になった時はまだきつかったよ」と。先生も涙ながらに話された時、私も親の愛の深さを感じ涙が出ました。昔と今の親はどうしてこんなに違うのでしょう?

6．巳三郎先生の視野の広さ、信念の強さ、懐の深さを感じ、こんな貴重な話を、高校の一室でなくもっと大きな会場で、もっと多くの人に聞かせたい。巳三郎先生は総理大臣をやるべきだと思った。大学の講議をサボって聞きに来た甲斐が有りました。天に感謝です。

7．お別れの前に両先生は、殆ど全員と握手をして下さいました。その時巳三郎先生が強く握りしめてくださった手。恭子先生の「頑張って下さいね」のお言葉。その嬉しさは忘れらません。お二人の期待に応えていける様な人になりたいと心から思いました。

恭子先生へ

1．恭子先生は、和服がよく似合い、人柄と経験から出てくるのか、優しい感じの中に凛として細かい事にもよく気が付き、意見はハッキリ、ユ-モラスで、私も恭子先生の様になりたい。

2．恭子先生の話は実に楽しかったです。「今日は天気がよいからカーテンを開けてみませんか」　恭子先生の言葉にカーテンを開けると本当によい天気!。慌てて天井の電灯を消しました。恭子先生は「炭酸ガスは（CO_2）は電気になってからは出ませんが、その電気を作る時、原料の殆どが沢山出るのです。ですから少しでも電気を使わないように、家庭のホタル火（使わない時少し光が残る）や自動販売機等不必要な物には使わない様に」と。電気を作る時 CO_2 が出るとは知りませんでした。日常生活の中で一人一人が出来る事から温暖化防止に立ち上がります。

3．谷口先生夫妻は、２５年も日本とタイで別居生活。でも“常に心は一つ”で恭子先生は「タイとの交流の会」を作って①夫の活動支援と、タイの売春婦、エイズ防止の為②日本から古ミシンを送り、指導者を雇い、教材費全てを支援して女性の自立を。更に③日本人が里親になって、タイの子供を勉強させる奨学金里親制度。そして④高知民族自立の為の果樹の森の資金送り⑤エイズの人々の救済。の支援活動を続けておられるとの事；。恭子先生は、私達夫婦はベターハーフ（よりよき半分）で、どちらが上、下ではない。いつもお互いに意見を出し合い協力し合ってるいると。これが本当の男女同権で有る。日本はまだ本当の男女同権では無い事に気付いた。

4．自分に負けないようしっかり勉強し、自分を高める話を聞き、坂本龍馬の「この世に生を得るは事を成すにあり」の言葉を思い出し、生きる力を頂きました。

5．私達が歌った“ビリーブ”を気に入って頂け大変嬉しい。その歌詞の「世界中の優しさで、この地球を包みたい」のように、皆で支え合いながら笑顔の絶えない未来を作って行きたい。

6．恭子先生の講演は時間が短か過ぎた。でも少しでも話を聞けて視野が広くなった。もっと聞きたい。

結婚式の花束は、母親だけでなく新郎新婦の両親に必ず４束準備して贈呈します。

7．恭子先生に茶道を教えて頂きたい。熊本スタディツアーを企画しています。更に色々のお話も聞かせて頂きたい。よろしく。

タイ国の、売春婦ゼロ、エイズ減る
日本中の支援　更に八十路へ　　恭　子

松戸高校の生徒達と谷口先生夫妻

心よりの御礼と更なる御協力を

会長　谷口恭子

谷口巳三郎先生は、今年の春叙勲を受けられました。之は皆様方の御支援の賜物です。私からも厚く厚く御礼申し上げます。私達夫婦はいつも互いに助け合って仕事をしていますが、その目的、願いは、暖かい地球家族を作りたいのです。お陰様で当会の仕事は少しずつよい方へ進んでいますが、まだまだです。どうぞ今後とも更によろしく願い上げとう存じます。

平成18年度　　行事告

H18

９／３０(土)　役員会　於：会長宅
１０／　７(土)　熊本県海外研修生歓迎の「月見の茶会」　於：会長宅
１０／２２(日)　総会　於：熊本市女性センター
１１／　３　　蓮華院大祭　　（タイ製品販売）
１１／　５　　会長講演　於：宮崎市民会館　（主催-国際こども支援団体"Heart & Hand"}
１２／　３(日)　会長講話　於：大江教会　子供会(タイの子供のようす)

H19

４／２２　　谷口巳三郎氏受賞の為帰国
５／　６　　巳三郎氏講演　於：坂本中学校
５／11　　谷口巳三郎氏　叙勲(旭日双光賞)　於：外務省　皇居
５／12　　巳三郎氏、恭子会長講演　於:千葉市松戸高校
５／17　　巳三郎氏　玉名中央ロータリークラブで講演　於：白鷺荘別館
５／19　　当会役員受賞祝賀会　　於：会長宅
５／21　　巳三郎氏　　熊本南ロータリークラブより「国際奉仕賞」受賞
５／２４　　熊本県知事表敬訪問　巳三郎氏・当会役員
５／２５　　巳三郎氏　渡タイ
７／15(日)～16(月)　朝４：０５～４：４５　NHK ラジオ「こころの時代」
巳三郎氏、他放送　（その反響は 放送直後より2ヶ月続いた）